

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>ケアに沿って困難などに面したとき、理念を思い出しケアにあたるように心がけている。</p>	○	入居者にも分かるよう、もう少し大きな文字で理念を掲げた方が良いと思われる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念は、1階・2階の壁に掲示しており、各自実現に取り組んで介護にあたっている。</p>	○	カンファレンス時に何を理念にし、ケアにあたっているか再確認している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>事前訪問、入居時に説明し、同意を得ている。</p>	○	地域の人にも理解してもらえようようにしたい。広報にも掲載するようにしている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>挨拶を欠かさず行き、声かけを積極的にしている。</p>	○	行事などの案内をだし、参加していただけるように努めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>夏祭りや年末の防火訓練や毎月の清掃に参加している。</p>	○	校区の行事にも全員参加はできなくとも、参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	クリスマス会や琴演奏会などの行事の際、案内し、参加していただいている。	○	地域の高齢者にも案内するようしていきたい。広報誌を配る工夫を検討してみたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を理解し、質の確保、向上に繋げることに努めている。	○	評価は掲示し、家族にも閲覧できるようにしている。また、職員にも評価終了後、改善点を伝え、さらに質を高めるように努力している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、情報交換をさせてもらいながら、前向きにサービス向上に活かしている。	○	地域代表者の出席率が低いため、出席していただけるよう努力していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要請があった場合の開示は、迅速に行っている。また、詳細なことでも相談するようになっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、介護支援専門員のみがその研修の中の権利擁護についての情報を持ち帰り、職員に周知しているが、時間が取れるようなら他職員にも研修を受けてもらい、さまざまな法規や制度を学習し、違ったケアのあり方を考えていきたい。	○	必要な方に、必要な支援を受けてもらえるよう知識の向上を図りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束については、月2回のミーティング、また、毎日の引継ぎ時にも注意するようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書等は、前もってお渡しし、説明を行い、十分理解されたうえで契約をするようにしている。</p>	<p>○</p> <p>一部の職員だけではなく、全職員が窓口となれるよう研修等を行うようにしたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を積極的に聞くようにしている。間接的に家族からも利用者の訴えを聞くようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>報告は、後手にならないよう心がけている。健康状態も、受診の都度、また、面会時などに報告・連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来所が多いため、できるだけ報告するだけでなく意見・不満・苦情を聞くよう、また、言えるような信頼関係を築くよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族には、遠慮が見られるため、家族のつどい等、雑談の中からでも意見を拾えるような時間を作れるよう検討していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回のミーティング以外にも常に聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>意見提案を十分検討し、動きにしたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望を受け入れた対応を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>常に心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等にはできるだけ参加できるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>上級資格習得のために、資格所有者から学び、また施設外研修や、模擬試験などにも日程を調節し参加してもらうように努めている。介護福祉士2名、今年も受験者1名。随時、他資格習得に向けた取り組みを行いたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会などで知り合った仲間と、交流させてもらい、情報交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>さらに親睦を深め、スタッフ間だけではなく、利用者間でも交流を行えるようにし、知識や意識、技術などを吸収し、向上して行いたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員の話聞くように心がけている。また、親睦会を設けるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員が日々、短時間でも心身を休めることのできる、居心地の良い場所の確保を検討したい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者への報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>月2回のミーティングにできるだけ運営者にも参加をしてもらうようにしていきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に来所していただいたり、訪問時に必ず本人と面会し、コミュニケーションをとるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の話をしっかり聞き、また、不安・思い等を言えるように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞いたうえで、本人がより良い生活が行えるよう考え、助言を行うようにしている。他サービスなど、情報を公開し、入所にいたらなくても本人および家人のこれからの生活で最も良いと思われるサービスの提案助言を行うようにしている。	○	ホームの利益抜きに、必要な人に必要なサービスが受けられるよう助言を行うように心がける。また、情報源となれるよう知識の向上に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格、得手不得手を把握し、家族と相談しながら実施している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争の体験談などを聞かせてもらい、利用者の歩んでこられた時代の習慣や歌、その時代の様子を聞かせてもらいながら喜怒哀楽を引き出し、共感するようにしている。	○	歌声がいつも聞こえるようにしていきたい。また、喜怒哀楽を表現できる環境(物的・人的)を整え自分を表現する場所の確保をおこないたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランや、日常生活の様子を十分に報告・説明し喜怒哀楽を共有するようにしている。	○	スタッフと家族だけの共有ではなく、家族同士の共有も強いつながりや安心を生むと思われるので、家族参加の行事を増やし、接する時間を多く設けるよう努力したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族からも本人からも話を聞き、関係の把握に努めている。また、互いの意見が違ったり思いが異なる場合は、さりげなく中間に入り、家族にも説明報告を行い、調整するようにしている。	○	家族間の縁が薄れていきがちになる家族もあるので、報告やこちらからの相談を行い人間関係が円滑に行えるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家近隣や、なじみのある場所へ散歩などに出かけ、知人と出会った時は、ゆっくり話ができるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事手伝いを利用者同士で行っている。洗濯物をみんなでたたみ、名前を見ながら仕分けすることで馴染みを作るようにしている。入浴をスタッフ見守りのもと、共に行うことで親睦を深めるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お見舞いに足を運ばせてもらったりしている。現在のところ、在宅復帰・転所者はおられない。	○	今後、そういったケースが出た場合は、手紙や電話、訪問を許される限り行い、交流を保つようにしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング・ケアカンファレンスを行い、本人の希望・意向を検討し、また話の中から希望を引き出すように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から聞くようにしている。入居時の聞き取りだけではなく、日々の生活の中からも小さな情報を拾い集め、ケアに活かすように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人、家族から聞くようにしている。入居時の聞き取りだけではなく、日々の生活の中からも小さな情報を拾い集め、ケアに活かすように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族より情報を収集し、アセスメントを行うようにしている。個々に合わせた介護計画を作成し、スタッフが一丸となってケアに当たっている。また、主治医やスタッフからの情報収集にも努め、トータル的な目で見ると心にかけている。	○	知り得た情報は共有し、更なるケアの向上に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、次の介護計画に取り入れるようにしている。また、状況を報告し、希望などを話し合った上で介護計画を立てるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後に分け、記録を行うようにしている。また、原因や理由なども記入し、次のケアに活かすようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状態の把握に努め、家人や本人と相談の上、最適なケアを行えるよう努めている。	○	新しいサービスの開拓や、今、自分たちが何を行えるかの把握を行うようにしたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる演奏会などを行っている。	○	慰問・ボランティアの回数や、バリエーションを増やし、スタッフだけでは提供できない潤いを支援できるようにしたい。また、地域消防局に依頼し、避難訓練や救命救急の勉強会、子供会訪問などができればと思っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーと情報を交換を行っているが、サービスには至ってはいないことがある。	○	理美容訪問サービス、マッサージサービス、訪問歯科(口腔ケア勉強会)等、利用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進委員会を実施し、意見を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と話し合い実施している。医師と家族のパイプ役となり、情報の交換や調節、連絡相談を行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医院への受診、治療、相談を行っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ケアマネージャーが看護師であり、常に健康管理を行っている。また、気にかかることは知人・先輩看護師などに相談し知識の向上に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護添書を送り、状態を病院に把握してもらい、また入院中のお見舞いや、退院時のケアカンファレンス開催依頼、医師からの説明を家族・本人とともに聞くようにしている。家族とも方針を定め、それに沿ったケアをプランとして立てるようにしている。入院時の状態も家族の了承のもと、看護師などに訪ね、入院中の状態把握に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新規入所者に対しては、契約締結時本人・家族と相談し、方針を打ちたて明確化している。また、制定後、入居者は順に家族や本人と相談し、明確化していつている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に家族、医師、スタッフが話し合うようにしている。できること、できないことを明確化し、文書で打ち出しできないことに関して、法律で行えない場合は、他サービスへの依頼検討、また技術未熟にてできないことは、研修等を行いできるように努力している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関連機関の方に相談、情報収集・情報の提供に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとり、人生の先輩とし、プライバシーの確保について話し合い、保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いくつかの選択肢を用意し、選んでもらえるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を把握し、日々の暮らしをその人らしくなるように努めている。	○ 利用者の要望の把握や聞き出し、関わり方などをミーティングなどでを行い、よりその人らしい生活を支援できるようにしたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば聞いて実践するようにしている。また、更衣時は服を利用者に選んでもらうようにしている。	○ 女性には化粧なども勧めたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも同じものを同じ時間にいただき、輪の中に入ることで細やかなケアを行うよう心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前、行事の際、少量のワインを出したことがあるが、希望者も少なく、現在はだしてない。甘酒をときに出すようにしている。たばこについては、禁止させてもらっている。	○ 好みがあれば、家族、医師と相談しお酒は検討する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間ごとに声かけを行い、リズムを整えるようにしている。排泄時間を記録し、トイレ誘導するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間などは決めているが、臨機応変に対応できるようにしている。	○	入浴希望時間に入浴できるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを確立できるよう援助しているが、十分でない場合もある。	○	個々の睡眠に関する表などを作成し介護に活かすようにしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや洗濯たたみなどを行ってもらっている。また、菜園などを行い、昔の知識などを活かす場面を設けている。	○	個人差が大きいですが、新しい趣味などを見つける手助けを行いたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、自己管理している人は少ないが、所持したい人は金額は少ないが管理してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	積極的に散歩などの声かけはしているが、利用者の気分により大きく左右される。	○	その日の気分により、声かけを行っても外出されない方もいるため、選択肢を設け、意欲的に外出できればと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族がドライブ、喫茶店へ連れて行ってくれる。また、スタッフが介助できない場所への希望があった場合は、家人に報告し、依頼するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少ないが電話も個別に使用する支援をしている。暑中見舞いや年賀状は必ず本人に書いてもらうようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の制限はなし。湯茶の用意を実施、相手方の希望される場所での談笑面会をしてもらっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを徹底している。拘束については、必要時、家人に説明、同意書を作成した上で実施。現在、拘束は一切ない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	天気の良い日は窓やドアを開けるようにしている。施錠の必要がある場合は、説明了承を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務所は、フルオープンとなっており、状況を観察しやすくなっている。利用者がどこにいるかの把握を都度行い、事故防止に心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬の保管に取っ手を内側にし、簡単に開けられないように工夫をしている。洗剤なども鍵つきロッカーに保管し、他、危険なものは利用者の視界に入らない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止にあたっては話し合いをし、転倒などに関しては再発防止を行うようにしている。記録は細かく残すようにしている。	○	リスクマネジメントの講習等を受講し、知識を高めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成、また、勉強会を設け、定期的を確認している。	○	職員からの啓発的な勉強会ができればよりよいと思われるため、中心人物の育成にあたりたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網で連絡するようにしている。地域の災害訓練に参加し、地域住民とコミュニケーションをはかり、協力を依頼している。	○	夜間対応に関し、再度見直しを行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に家族と話し合えるようにしている。また、リスクマネジメントの研修を受けるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気にかかることは、必ず記録に残し、引継ぎなどで他スタッフに周知するようにしている。また、気にかかることは、管理者・看護師に連絡するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を確認し、指示通り内服できるよう努めている。飲み忘れ、誤薬を防ぐため、記録にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	時間ごとに誘導、声かけを行っている。運動や水分補給に気を配るようにしている。	○	運動量に個人差はあるが、多くとりたい。水分や排泄についてはINOUT表での記録を行い、管理しやすい工夫をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては強化し、1対1で口腔清潔が行えているかチェックする時間を設けている。歯科受診の支援。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師が献立をたて、職員の見える場所に貼っている。水分量や食事量の記録を行い把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師が勉強会を開き、繰り返し情報などを伝えるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はできる限り新鮮なものを使用するよう心がける。定期的に料理道具の消毒を実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープを利用して外出するようになっている。また、手すりを設け、歩きやすくしている。玄関には、花壇を設け、季節の花を植えるようにしている。看板は目立たないようにし、施設感を出さないようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、生花をいれ、季節感を採り入れている。また、季節にあった飾り付けを過度にならないように行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、2階フロアにソファを設け、談笑できるよう気を配っている。居室は全室個室で、独りになれるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、生活用品の持ち込みを自由にし、馴染みのあるものを使用していただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気と消臭器を設置している。また、室温の確認、加湿器を利用し乾燥に注意をしている。定期的に空気の入れ替えを行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、各要所に手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安や混乱を招く汚れはすぐ掃除し、また、誤解を招くようなものは極力置かないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキで日向ぼっこ、めだかの飼育。庭には、柿や無花果、さくらんぼの収穫を楽しみにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、“いつまでも あなたらしく 生きる楽しさを”を理念とし、利用者が今まで営んできた生活様式を第一に考えつつ、共同生活を営めるように支援させていただいています。

朝食1つをとっても、パン食の方はパン、ご飯食の方はご飯、と一律ではなく希望や今までの生活スタイルを用意させていただいていますし、入眠時更衣の習慣がなかった方は無理に寝巻きに着替えてもらわず、体調の管理を行いつつ、他のことで時間のメリハリをつけていただいたり、清潔に気を配るようにさせていただいています。

自宅での生活の延長がここにあるという認識で、スタッフが常にその人らしくを頭の隅に置き、日々、安全に安楽に生活できることを第一に支援させていただいています。